

——自治体が一体になると
いう点では、浅野さんは宮城
県知事時代、公共事業が談合
や汚職の舞台になる状況をな
くすため、入札制度改革を行
いました。

◆実は、改革を言い出した
のは私ではないのです。県の
担当幹部がずっと温めてきた

であろう提案を持ってきた。
ここは大事なポイントです。
それまでの知事は選挙で建
設業の人たちの応援を受けて
きた。つまり、建設業界に世
話になってきたのです。そこ
ろが、「浅野は企業献金も推
薦も受けない。今までは違
う」という見方をされていた。
県の担当幹部も、以前から
入札改革をやりたいかったが、
当時の知事にそんなくして提
案できなかった。それを私が
知事になってから持ち出して
きたのだと考えています。

——かつて、公共施設の建
設は地域経済の活性化策に位
置付けられていました。自治

体のトップにとって、いわゆ
る「ハコモノ」とはどのよう
なものでしょうか。

◆自分が知事を辞めて「功
績は何ですか」と聞かれた時、
「こういう施設を作った」と
いうのは目に見える。「俺が
作ったぞ」という思いもある
でしょう。私はこれを「建設
バイアス」と呼んでいます。

必ずしもハコモノを作らな
くてもできる政策でも、自分
の功績として目に見えるもの
にしたいという誘惑がバイア
スを生んで、「建設」にこだ
わってしまう。そこには利権
も絡む。私はそこから脱皮し
ないといけないと肝に銘じ、
県政運営にあたりました。



地方創生を担う中堅企業との意見交
換会で発言する石破茂首相(右端)＝
首相官邸で2月21日、平田明浩撮影

りがある。他とは違う価値を
持っていることは貴重です。
そこに誇りが持てるようにな
っていかないと、人口減以前
の問題として、みんながみな
な埋没してしまうでしょう。

——「他とは違う価値」が
キーワードになるということ
ですね。

◆全部の市町村がそれを見
つけられるわけではない。一
斉に走り出すのではなくて、
まずは全国で10力所でも特色
のある地域が出てくればよ
い。自治体でなく、地域住民
全体で「自分たちの地域の価
値をどうやって高めていくの
か」という発想で動く。

そういう地域があちこちに
出てきて、それが20力所にな
り、いつの間にか100力所
になる。そのような広がり方
ができれば、かなりの問題は
解決していくのではないでし
ょうか。

人口減は不可避 まず「誇り」必要

——浅野さんがもう一度、
自治体経営をしたら、
どのように進めますか。

◆具体的にどういう経営を
するかは別として、地方自治
にしても国のあり方にしても
「ちょっと間違えてはいませ

んか」と感じます。
人口減は悪いことなのでし
ょうか。高齢化も少子化も人
口流出も、もう避けられない。
人口減はマイナスシンボルだ
という従来の発想では、じり
貧になるばかりです。そこか
ら脱する必要があります。
例えば、この地域にはきれ
いな川と緑の山がある、この
地方には代々伝わる神楽や祭

◇
ご意見をお寄せください。
〒100-8051 毎日新
聞「オピニオン」係。